

平成 28 年度 島田樟誠高等学校 学校評価

平成 29 年 3 月 3 日

教育目標

自ら求めて学ぶ自主自律の精神を養い、心身を鍛えるとともに、校訓「誠、愛、勇」の下に人格の完成をめざす。

教育方針

- 1 学校生活における目標を持たせる。
- 2 学習に積極的に取り組む姿勢を育てるとともに、学力を身に付けさせる。
- 3 思いやりの心を育てるとともに、社会性を身に付けさせる。
- 4 進路意識を高め、進路目標を達成させる。

平成 28 年度における学校経営方針と具体的目標

学校経営方針	具体的目標	自己評価	成果と課題	学校関係者評価
教育課題の解決に積極的に取り組む。	教育課題に関する共通理解を深め、その解決のための方策を実行する。	Ⓐ B C D	入学生の安定的な確保、学力の向上、希望する進路の実現という大きな課題について、各担当部署において議論、審議がされている。文科省では、高校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的な改革を進めており、平成 31 年度から（仮称）高等学校基礎学力テスト、平成 32 年度から（仮称）大学入学希望者学力評価テストが導入される計画である。このような国の動向を踏まえ、本年度から総合コースも原則月 2 回程度土曜授業を開始した（年間の授業日数 210 日、特別進学コースは原則月 4 回程度で年間の授業日数 230 日）。また、将来にわたる学校運営の安定化を目指し、平成 30 年度からの男女共学化を決定した。それにもなつて学校改革委員会を立ち上げ、教育課程の見直しや学力向上のための具体的な対応、新たな制服の制定、女子トイレ・更衣室等の学校施設の改修について検討を開始した。生徒の転退学については、きめ細かな指導を重ねているが、本年度は残念ながら 2 月 24 日現在で前年比 42%増(12 人→17 人)となっている。このうち 8 人が転学(通信制課程等へ)、2 人が病気治療のためである。不登校傾向から進路変更するものが多く、粘り強く指導していきたい。本校の中・長期的な在り方については、校長から職員会議、研修会等で明示されており、各部署でそれに向けて具体的な取り組みを検討していくことが急務である。	Ⓐ B C D

	総合コース、特別進学コースの設置の趣旨を踏まえ、進路の実現を目指す教育課程を編成する。	(A) B C D	平成 29 年度入学生から実施する特別進学コースと総合コースのコース変更可能な教育課程を編成した。更に男女共学化する平成 30 年度入学生から実施する、(仮称) 高等学校基礎学力テスト、(仮称) 大学入学希望者学力評価テストに対応し、進路の実現可能性をより高める 3 コース制の教育課程も編成した。	
	男子校としての特性を活かす教育活動を推進する。	(A) B C D	従来から規律訓練等、男子校の特色を生かした教育活動を行っている。6 月 12 日には、第 5 回高等学校応援団フェスティバル in 静岡に出場し男子生徒約 50 人による演技で威容を示した。また本年度、毎月 1 回 (年 12 回)、FM 島田の番組「ハイスクールラジオ」に生徒 5 人が出演し男子校の良さを PR した。	
目標意識を育てる。	学校生活における具体的な目標を持たせる。	(A) B C D	始業式、終業式での校長講話や全校規律指導、ホームルーム、部活動の中で、目標を持つことの大切さを繰り返し話してきた。また総合コース 2, 3 年生で週 1 時間実施している「夢実現プロジェクト」で、早期に進路目標を持たせる指導を行っている。特に本年度は 90 周年記念行事の第 2 部でのサッカー元日本代表の都並氏の講演や誠タイムでのリオ・パラリンピック銅メダリストの佐藤氏の講演で、夢や目標を持つことの大切さを伝えた。その結果、目標を持って学校生活を送る生徒が増えてきた。	(A) B C D
	部活動等に真剣に取り組むことを通じて心身を鍛え達成感が持てるように指導する。	A (B) C D	全校で約 4 分の 3 の生徒が部活動に加入している。特に運動部では、10 の部が県大会以上に出場した。特に陸上競技部、自転車競技部、バレー部 (私学大会) が予選を勝ち抜いて東海大会に出場した。中でも、陸上競技部のハンマー投げでは、東海総体で 3 位に入賞し、全国総体と国民体育大会に出場した。また、5000m 競歩では新人戦県大会で優勝した。一方、文化部も囲碁将棋部が県大会に出場し、模型部が今年度も静岡ホビーショウや国際ジオラマグランプリに出品した。更に調理部や陶芸部もそれぞれ 30 人近い部員で熱心に活動している。	
	各種の資格試験や検定試験に積極的に挑戦させる。	A (B) C D	授業や夏季講座において漢字、英語、数学、日本語ワープロ、情報処理、レタリング、フォークリフト、救命救急、危険物取扱等の検定試験や講習の対策を行い多くの生徒が挑戦し資格を取得した。その結果、数学検定準 1 級 (特進コース 3 年生) や英語検定 2 級 (総合コース 3 年生) の合格者を出すことができた。	

学習指導を充実する。	校内外の研修に積極的に取り組み、教育活動の質の向上と活性化を目指す。	A (B) C D	県私学協会、県教育委員会主催の研修会をはじめ、志太地区の中学校や近隣の高校などの研究発表会に主として中堅や若手職員を積極的に派遣した。必要に応じてベネッセやリクルートの研修会も利用した。校内でも月曜研修や公開授業のほか、進路指導力の向上を図るため、小論文指導の講師を招聘して全職員対象の講習会を実施した。校内での公開授業は、保護者と要望のあった中学校へも案内をした。	A (B) C D
	チャイムと同時に授業を始め、授業に真剣に取り組む姿勢を育てる。	A (B) C D	ほぼ良好な状態であるが、更に改善の余地がある。授業中の生徒の様子は、一部に集中力を欠いているものも見られ更なる授業への取り組みの徹底が望まれる。	
	分かりやすい授業を行い、基礎学力を習得させ、進路に応じた発展的な学習指導を徹底する。	A (B) C D	6月に公開授業日を設定し、全職員が公開授業を行い参観者が感想を授業担当者に提出した。年8回の全校漢字テストとマナトレ（数学の学び直し）は昨年同様実施した。また本年度より、ベネッセコーポレーションの基礎力診断テストを総合コース1・2年生で年2回、3年生で年1回実施し、結果について分析会を行った。これにより学力の伸び具合を客観的に把握し、日々の授業の改善の手掛かりとするとともに、平成31年度から文科省の行う新テストや就職試験などに対応していきたい。	
	読書の習慣を身に付けさせる。	(A) B C D	毎朝10分間の朝読書は定着しており読書習慣が身に付き始めた。	
	コミュニケーション能力を育てる。	A (B) C D	本校には、コミュニケーションを苦手とする生徒が多い。そこで3年生の就職希望者に対して本校職員による面接練習を重ねた後、島田商工会議所青年部の方による模擬面接（8月下旬）、本校理事、評議員、保護者の方による模擬面接（9月上旬）を実施した。面接練習だけでなく入学時からの日常生活の中でコミュニケーション能力を高めていく効果的な育成方法を模索している。	
	生活指導を徹底する。	人を思いやる心を育て、ルールやマナーを守る意識を高める。	A (B) C D	
自主的に、明るく、さわやかな挨拶をするように指導する。		A (B) C D	運動部活動での挨拶指導や、朝の登校指導等が功を奏し、多くの生徒が気持ち良い挨拶をするようになり、近隣の方々からも評価されている。	

	規則正しい生活習慣を確立し、遅刻、欠席をしないよう指導する。	A (B) C D	毎朝、生徒昇降口に校長、教頭、学年主任、生徒指導主事が立って登校指導を行い、またクラス担任が遅刻、欠席が多い生徒を家庭と連絡を取りながらきめ細かく指導している。更に生徒指導課を中心に8時25分登校を奨励している。年間を通じてみると欠席は横ばい、遅刻は減少傾向にあり、指導の効果が表れている。	
	服装、頭髪の指導を徹底する。	(A) B C D	計画に基づいて、学期に1回、生徒指導課が主催して全校一斉頭髪服装(眉・ピアス)検査を実施し、また月1回、学年における頭髪服装検査も行った。検査に合格できるまで指導を重ねることに因り、服装、頭髪等に関しては良好な状態にある。	
進路指導を充実する。	進路意識を高め、目指す進路目標の実現に向けて指導を強化する。	(A) B C D	進路指導は、毎年、進路指導課作成の「進路のしおり」を基に各学年で年間計画を立て、LHR等を利用して実施した。総合コース2・3年生では、進路学習として週1時間「夢実現プロジェクト」(自分の特性を知る、仕事や進学についての理解を深める、自分の目指す進路先について志望の理由をまとめる、面接の練習をするなどを計画的に行い、自分に適していると思われる進路を絞り込んでいく授業)を行っている。特進コースでは、大学に合格した卒業生の合格体験談を聞く会や大学見学等の進路意識を高める機会を作った。進路決定状況は、2月24日現在で4大進学44人、準備中1人、専門学校等52人と就職86人は全員内定となった。就職については求人企業の拡大を目指し、大学進学指導については、各大学の特色、入試制度や入試の内容の研究を深めたい。	A (B) C D
	組織的、計画的な進路指導体制を確立する。	A (B) C D	「進路のしおり」に基づいて1年次からの計画的なプログラムを作った。また、総合コース2,3年生では、「夢実現プロジェクト」の時間を使って、全クラスの組織的な進路指導を目指している。静岡新聞の「Future しずおか」などと連携して働くことについて考える機会を持たせ、面接の練習、進学就職説明会、講話などの機会を更に増やすと共に、筆記試験で躓くことの無いよう基礎学力の向上にも力を入れたい。全職員の進路指導の力を伸ばすための研修も継続する。	
	進路指導に関する資料の充実・整備を図る。	A (B) C D	進路閲覧室に進学用、就職用の資料が整備されており、生徒、職員が随時利用している。今後、受験者が作成した大学等の入試や就職試験の報告書を蓄積し、個別の大学や企業の試験内容の分析を深めていくことが求められる。	

安全や健康に関わる教育を推進する。	安全や健康に配慮した環境の整備を図る。	Ⓐ B C D	例年、保健委員会の生徒が「保健便り」を発行（年間8～9号）し、健康に対する啓蒙を行っている。また、時期ごとの流行性疾患については養護教諭を中心に、手の消毒液の全クラス配置をはじめ早めの対応をしている。本年度は、インフルエンザで2クラスが学級閉鎖したが、他クラスへの感染拡大を防止することができた。	A Ⓑ C D
	健康について関心を高め、日常の健康管理が実践できるよう指導する。	A Ⓑ C D	インフルエンザ、感染性胃腸炎等の流行が予想される時期には、一定期間継続して朝のSHR時に全校一斉で健康観察を行って報告させ、全校的な取組みを迅速に実施できるようにした。	
	地震等の災害に対する防災意識を高めるため、防災訓練等の方法を工夫する。	A Ⓑ C D	6月の防災訓練では、平常の授業時に抜き打ちで避難訓練を実施し、実際の災害時に備えた。発災時に生徒がいる場所からの避難経路を選択できるよう、毎年条件を変えて訓練を実施したい。幼稚園との合同防災訓練は、天候の都合で実施できなかった。	

A～Dの評価については次のように規定する。

- A 十分に達成できた。
- B おおむね達成できた。
- C やや不十分な面が見られた。
- D 不十分であった。